

夏山の良さを伝えよう

5月～7月(16時間)

1 ねらい

本年度、オール複式となった夏山小には、少人数であり、自然に囲まれた夏山小ならではの良さがたくさんある。しかし、そこで当たり前のように生活している子供たちには、その良さをそれほど感じていないようだ。大門小から転任してきた担任が、大門小の様子と比較させることで、夏山の良さを感じ取らせたいと考え、本実践に取り組むことにした。

2 実践の概要

(1) ビデオレターで伝えよう

夏山小は、全校児童数25名で、本年度初めてオール複式となった小規模校である。それに比べ、担任が昨年まで勤務していた大門小は、児童数約800人の大規模校である。大門小の3年2組と学校自慢のビデオレターを交換する約束をし、「夏山小の良さを大門小の3年2組へ伝えよう」と子供たちに提案した。



資料①

子供たちは、1学年4クラスもある大門小に興味津々だった。さっそく学校のホームページで大門小の様子を見ることにした。子供たちは、校舎の大きさや人数のに驚いた様子だった。また、ホームページの大門小日記で練習が始まった運動会の練習の様子も比べてみたが、ずいぶん様子が違っていたので、このあたりから違うところをさがしていくことにした。(資料①—夏山小運動会 一輪車競技—)

(2) 何を紹介しようかな

- ・全校でお花見(おおだの森)
- ・夏山川に並ぶこいのぼり
- ・夢山で楽しもうの会

○ランチルームでの全校給食

- ・なかま班の活動

○田植え ・お誕生会

- ・サツマイモのつる差し

○夢山のマス池

- ・サクランボ
- ・すもも

○運動会での一輪車演技と

7人8脚

- ・梅ジュース作り
- ・集合学習
- ・寿会さんとの草取り
- ・ホテル観賞会

4月からどんなことがあったかを、夏山小のホームページで見ながら探していった。この中から、5つ選ぶことにした。子供は9人なので、2人1組で5つとした。なるべく大門小の子たちがびっくりすることを選ぶようにした。

右の表の4つはすぐに選べたが、あと1つで困った。するとA児が「夏山小は実のなる木がいっぱいある」と発言した。A児は2年生のとき、根石小から転校して来たので、それを感じたようだ。意見を聞いた子供たちは、なるほどと感心し、5つ目は「実のなる木がたくさん」に決めた。

(3) 紹介文を考えよう

2人組を作り、まず個人で紹介文を書いた。2人とも書いたら、互いに読み合い、良いところをつなぎ合わせて紹介文を完成させた。今まで行事の作文は何度か書いたのだが、説明文は初めてで、とくに「運動会の一輪車演技となかま班での対抗」を選んだ3年生2人組はどう書けばよいのか困ってい

た。教師は、まず自分たちがしたことを順序よく思い出して書かせ、そこへ説明する内容を付け足すように助言した。

(4) アドバイスタイム

紹介文が出来上がったグループから他の子たちに聞いてもらい、アドバイスをもらう場を設けた。例えば、「田植え」は他の学校でも行っているが、夏山小の特長は「寿会さん」に教えてもらったり、終わった後に学校近くの夏山川で泥を洗い流したりすることである。それらを書き足すとよいことが次々とアドバイスされた。

この場ではアドバイスだけではなく、良い書き方を紹介することもあった。例えば「マス池」のグループの「大門小にはこんなものはないでしょうが」や「全校給食」のグループの「大門小ではどんなふうに給食を食べていますか」のような書き方である。聞き手を意識した書き方や問いかけるような書き方を取り入れるとよいことが掴めた。その後、もう一度内容を吟味し、紹介文を書き直した。

(5) 視覚に訴える

次に、紹介文の中で視覚に訴えるとよいところを探させた。だらだらと説明を聞いているだけでは、聞き手が飽きてしまうからだ。VTRで撮影する・写真を撮影して説明を書きこむ・図を描く・記録写真から数枚選んで見せるなどを紹介し、それらから最適のものを選ばせた。

(資料②③ーランチルームのテーブル・校庭の絵地図ー)

- 給食グループ…VTR・写真(説明入り)・図
- 田植えグループ・運動会グループ…記録写真から選択
- マス池グループ…地図
- 実のなる木グループ…写真を使った絵地図

(6) VTRレター

発表原稿や資料が出来上がったら、発表練習を行った。原稿を読んでいる子と資料を提示している子のタイミングや、前半後半での交代なども練習した。学級の前で発表を聞き合い、ここでもアドバイスタイムを設けた。「原稿を読む速さが速いと、初めて聞く大門小の子には伝わらないと思う」「写真を見せる時間が短くて、よく見えないうちに進んでしまう」など、聞き手の立場に立ったアドバイスができていた。アドバイスの内容を意識してさらに練習を行い、VTR撮影を行った。担任が編集し、大門小へビデオレターを送った。

3 成果と課題

この単元は16時間という長い単元だったが、子供たちの活動意欲が単元最後まで継続できた。それは、活動内容が「夏山自慢」のいう子供たちの興味・関心の高いものだったこと・常に相手がいることを意識できたことが効果的だったと考えられる。発表原稿の中に「夢山やマス池は、ぼくたち夏山小の宝です。」という文章が出てきて、この活動を通して、子供たちは夏山の良さを感じ取ることができた。

3・4年の複式学級なので、学年差が感じられたことが課題として挙げられる。4年生と3年生では、国語の能力に差があり、原稿作りでは、3年生にはかなり支援が必要だった。能力差を考えたグループ作りが必要だったように感じた。

